

アルコール依存症の早期介入から回復支援に至る切れ目のない支援体制整備のための研究 課題番号：（20GC1601）

令和3年度分担研究報告書

分担課題：「新アルコール・薬物使用障害の診断治療ガイドライン」に基づく診療の実施状況調査

分担研究者 木村 充（久里浜医療センター）

研究要旨

【目的】全国のアルコール専門治療機関に対するアンケート調査を通して、治療の実態について、実態を把握することを目的としている。

【方法】全国のアルコール治療機関に、治療の実施状況について質問紙を作成し、郵送にてアンケート調査を行った。

【結果】入院治療は他の精神疾患と共通の病棟で行われることが多く、約3か月の治療機関が設定されている施設が多かった。家族向けプログラムや外来治療のプログラムを70%程度の施設で行なっていた。80%を越える施設で、少なくとも一部の患者で減酒を目的とした治療を行っていた。コロナ禍前後の入院患者数、初診患者数の比較では、ともにコロナ禍前に比べて、患者数が減少している施設が多かった。

【考察】全国のアルコール専門治療機関へのアンケート調査を行い、治療の実態について調査した。減酒を目標とした治療が一般的に行われていた。コロナ禍の影響で、多くの治療施設ではアルコール依存の患者数は減少していた。今後、更に詳細の解析を加えると共に、専門治療施設以外での治療の実態についても調査をしていきたい。

研究目的

アルコール使用障害に対する新しい治療ガイドラインにおける治療目標は、従来の断酒一辺倒から、減酒が目標として挙げられるようになるなど、個人に合わせた多様な介入が求められるようになってきている。

本研究では、全国のアルコール専門治療機関にたいする調査を通して、治療の実態について、特に新ガイドラインで掲げられた減酒を目標とした治療がどのようにされているか、また、どのような治

療技法が行われているかについて、実態を把握することを目的としている。

B. 研究方法

アルコール治療拠点医療機関となっている全国の188のアルコール治療専門医療機関に対して、治療の実施状況、治療の内容と実施者の職種、コロナ禍前後の患者数等についてのアンケートを作成し、郵送にて送付・回収し、その内容について解析した。

C. 研究結果

令和4年3月末の時点で、115のアルコール治療専門医療機関より回答を得た。

115 施設中 97 施設で入院治療を行っており、入院病棟のセッティングとしては、アルコール専門の入院病棟がある施設が 15 施設、他のアディクション疾患と共同の依存症病棟がある施設が 16 施設、他の精神疾患の病棟の中でアルコール治療を行っている施設が 66 施設であった。入院治療を行っている施設の中で、依存症治療にあたる職種は、医師が 100%、看護師が 95.8%、保健師は 3.2%、作業療法士 85.3%、精神保健福祉士・社会福祉士 91.6%、臨床心理士・公認心理師 80.0%、薬剤師 53.7%、管理栄養士・栄養士 57.9%、理学療法士 2.1%、Recovered Staff（回復者）3.2%の施設で関わっていると回答された。93.5%の施設で、一律、あるいは一律ではないがある程度の治療機関の設定があり、期間はおおむね 3 か月程度の施設が多かった。サブグループ向けのプログラムとしては、21.4%の施設で高齢者用プログラム、22.4%の施設で女性患者用のプログラムを設定していた。

入院治療を行っていない施設も含め、67%の施設で何等かの家族向けのプログラムを行っていた。他の依存症用との共通のプログラムを含めると、73.5%の施設で外来患者様のプログラムを行っていた。減酒を目的とした治療については、「減酒外来」などの専門の治療を行っている施設は 17.1%であったが、専門治療はないが一部の患者で減酒を目的とした治療を行っている施設は 68.5%に上り、減酒を目標とした治療は行っていないと回答した施設は 14.3%に過ぎなかった。

コロナ禍前の 2019 年の入院患者と比べた場合の、コロナ禍後の 2020 年、2021 年にアルコールの入院患者数は、約 6 割の施設で減少しており、増加していたと答え

た施設は 28%程度であった。アルコールによる初診患者数も、2020 年、2021 年の患者数は、減少していた施設が過半数であった。

D. 考察

全国のアルコール専門治療機関に対するアンケート調査を実施した。入院病棟は、アルコール依存症あるいは他のアディクション疾患と共同した依存症病棟としている施設もあるが、多くの専門治療機関では、他の精神疾患と共通の精神科病棟の中で依存症治療を行っていた。多職種でアルコール治療を行っており、医師、看護師、作業療法士、精神保健福祉士、臨床心理士が治療に関わっている施設が多く、薬剤師や栄養士はそれらに比べると関わっている施設の割合はやや低かった。保健師や理学療法士、Recovered Staff が治療に関わっている施設はほとんどなかった。入院期間はおおむね 3 か月程度の治療期間を設定している施設が多かった。

入院以外のプログラムとして、家族向けプログラムや外来治療のプログラムを 70%程度の施設で行なっていた。減酒外来などの減酒者向けの専門の治療を行っている施設は 17%にとどまっていたが、80%を越える施設で、少なくとも一部の患者で減酒を目的とした治療を行っていた。

コロナ禍前後の入院患者数、初診患者数の比較では、ともにコロナ禍前に比べて、患者数が減少している施設が多かった。これは、コロナ禍による受診控えの影響が大きいものと思われたが、コメントでは、在宅ワークの普及による飲酒量の増加や、失職による飲酒の増加など、コロナ禍に影響されたと思われる患者の増加も報告されていた。

E. 結論

全国のアアルコール専門治療機関に対するアンケート調査を行った。専門治療期間では、外来治療のためのプログラムや減酒を目標とした治療が、多くの施設で行われていることが分かった。コロナ禍の影響により、多くの施設で入院患者数や初診患者数の減少が見られていた。今後、さらに詳細の解析を加えると共に、専門治療施設以外での治療の実態についても調査をしていきたい。

F. 健康危険情報

特になし。

G. 研究発表

特になし

H. 知的財産権の出願・登録状況

特になし

(別紙 アンケート調査質問)

1) 貴施設には、アルコール依存症治療のための**入院病棟**がありますか。当てはまるものに○をしてください。

(1) アルコール専門の入院病棟がある。

(2) 他のアディクション疾患（薬物依存等）と共同の依存症病棟がある。

他のアディクション疾患に○をつけてください

薬物依存 ギャンブル 摂食障害 ネット その他 ()

(3) 他の精神疾患の病棟の中でアルコール治療を行っている。(アルコール患者がおおよそ50%以下)

(4) 入院治療は行っていない → 1 0) へ

2) 上記のアルコール依存症の治療病棟は、何病棟/何床ですか。閉鎖/開放病棟、男女別にお答えください。問1で(2)(3)と回答された方は、そのうち何床がアルコール用の病床数かお答えください。また貴施設の全病棟数・病床数は何床ですか。

全病棟数 () 病棟、全病床 () 床

男女別病棟			
男性		女性	
開放病棟 () 棟	閉鎖病棟 () 棟	開放病棟 () 棟	閉鎖病棟 () 棟
アルコール用病床数/病床数	アルコール用病床数/病床数	アルコール用病床数/病床数	アルコール用病床数/病床数
() / ()	() / ()	() / ()	() / ()

男女混合病棟			
開放病棟 () 棟		閉鎖病棟 () 棟	
男性アルコール用 病床数/病床数	女性アルコール用 病床数/病床数	男性アルコール用 病床数/病床数	女性アルコール用 病床数/病床数
() / ()	() / ()	() / ()	() / ()

3) アルコール依存症の治療病棟で、依存症治療に当たっている職種は次のうちどれですか。その人数をお答えください。(複数の(準)アルコール専門病棟をお持ちの施設の方は、代表的な一つの病棟についてご記入下さい。)

- (1) 医師 _____名
- (2) 看護師 _____名
- (3) 保健師 _____名
- (4) 作業療法士 _____名
- (5) 精神保健福祉士・社会福祉士 _____名
- (6) 臨床心理士・公認心理師 _____名
- (7) 薬剤師 _____名
- (8) 管理栄養士・栄養士 _____名
- (9) 理学療法士 _____名
- (10) Recovered Staff (回復者) _____名
- (11) その他 _____名 (具体的に: _____)

4) アルコール依存症の専門治療に対して一律の**治療期間の設定**はありますか？複数のアルコール治療病棟をお持ちの施設の方は、代表的な一つの病棟についてご記入下さい。

(1) 一律の治療期間の設定がある。

→通常は、(_____ 週、 _____ ヶ月) 程度

(2) 一律ではないが、ある程度の治療期間の設定がある。

→通常は、(_____ 週、 _____ ヶ月) 程度

(3) 特に治療期間の設定はない。

5) 貴施設ではアルコール依存症患者の入院治療において、身体合併症を有する患者はどの程度まで受け入れていますか。以下のいずれかで当てはまるものに○をしてください。

(1) 軽症（例：軽度の肝障害やアルコール性脂肪肝等）のみ受け入れる

(2) 軽症から中等症（例：アルコール性肝炎等）まで受け入れる

(3) 軽症から重症（例：末期の肝硬変や腹水貯留を呈した状態等）まで受け入れる

(4) 特に一定の基準はなく、医師がその都度判断し受け入れている。

(5) 身体合併症を有する患者は受け入れていない。 → 7) へ

(6) その他（具体的に: _____）

6) 貴施設では、身体合併症を有するアルコール依存症患者の内科的治療はどなたが担当していますか。あてはまるもの全てに○をしてください。

(1) 精神科医

(2) 院内の内科医師（常勤医）

(3) 院内の内科医師（非常勤医）

(4) 提携・連携している外部医療機関の内科医師

(5) 特に決まっておらず、必要に応じて受診先を決めて対応している。

(6) その他（具体的に:_____）

7) アルコール離脱期を過ぎた頃からのアルコール依存症患者向け**治療プログラム**の内容についてお尋ねします。アルコールのプログラムにおいて、どのような技法を取り入れていますか。あてはまるもの全てに○をしてください。

(1) 認知行動療法(CBT)

(2) 動機づけ面接法(MI)

(3) 随伴性マネジメント(CM)

(4) 家族療法(CRA)

(5) クラフト(CRAFT)

(6) 内観療法

(7) 座禅、瞑想、マインドフルネス

(8) 運動療法

(9) 作業療法

(10) 社会生活技能訓練（SST）

(11) 自助グループ

(12) 患者 OG/OG とのミーティング

(13) 個別心理面接

(14) 退院前訪問

(15) 12 ステップ・プログラム (Twelve-step program)

(16) その他 (具体的に: _____)

8) 貴施設にはアルコール依存症患者の患者特性に応じたサブグループ向けの治療プログラムが有りますか？当てはまるものが有れば、全てに○を付けてください。その他のプログラムが有れば、具体的内容をご記入下さい。

(1) 高齢者用プログラム

(2) 身体合併症患者用プログラム

(3) 女性患者用プログラム

(4) 若年患者用プログラム

(5) その他 (具体的に: _____)

その他 (具体的に: _____)

9) アルコール専門病棟あるいは準アルコール専門病棟に入院中の患者に対する院外への自助グループ(相互援助グループ)参加はどのようにされていますか？いずれかを選んで下さい。また、退院の近い時期の患者は1週間に何回位参加されていますか？自助グループ毎に参加可能な回数をご記入下さい。断酒会、A.A以外のものはその他に具体名とともにご記入下さい。さらに、A.Aメッセージ(院外のA.A等の自助グループの人たちの来院による院内での勉強会)の受け入れの有無をお答え下さい。

(退院の近い時期の患者の) 院外自助グループ参加は、

- a) プログラムの一環として義務付けている。
- b) 義務付けてはいないが、参加を積極的に勧める。
- c) あくまで任意である。

院外自助グループへの参加可能回数は、

1 2) (上の質問で (1) (2) を選んだ方) 外来プログラムとして、どのようなプログラムを行っていますか。また、1 回のおよその参加人数と開催の頻度をお答えください。

- (1) 集団ミーティング _____名 月_____回
- (2) 集団教育（講義形式のもの） _____名 月_____回
- (3) 認知行動療法 _____名 月_____回
- (4) 動機づけ面接法 _____名 月_____回
- (5) 作業療法 _____名 月_____回
- (6) デイケア・ナイトケア _____名 月_____回
- (7) 就労支援プログラム _____名 月_____回
- (8) その他（具体的に： _____） _____名 月_____回
- その他（具体的に： _____） _____名 月_____回

1 3) 貴施設では減酒を目的とした治療は行っていますか。

- (1) 減酒を目的とした専門の治療を行っている。（「減酒外来」など）
- (2) 減酒の専門治療はないが、一部の患者で減酒を目標とした治療を行っている。
- (3) 減酒を目標とした治療は行っていない。

1 4) (入院、外来を通して) 貴施設では、以下の薬物をアルコール依存症の治療に処方していますか。それぞれの薬剤についてあてはまるものを選んでください。

ノックビン®（ジスルフィラム）

- a) 原則処方する b) 一部の患者で処方する c) ほぼ処方しない

シアナマイド® (シアナミド)

- a) 原則処方する b) 一部の患者で処方する c) ほぼ処方しない

レグテクト® (アカンプロサート)

- a) 原則処方する b) 一部の患者で処方する c) ほぼ処方しない

セリンクロ® (ナルメフェン)

- a) 原則処方する b) 一部の患者で処方する c) ほぼ処方しない

- 15) アルコールの患者数の変化についてお尋ねします。2019年、2020年、2021年の貴施設でのアルコールによる受診患者数は何人でしたでしょうか。概数で結構ですので、もしお分かりになればご記入ください。

入院アルコール患者数：2019年 _____名

2020年 _____名

2021年 _____名

初診アルコール患者数：2019年 _____名

2020年 _____名

2021年 _____名

- 16) コロナ禍によるアルコールの受診患者数への影響はどのようでしたでしょうか。印象をお答えください。

(1) 大きく減少した

(2) やや減少した

(3) 変わらない

(4) やや増加した

(5) 大きく増加した

17) 2020年と比較して、2021年はコロナ禍によるアルコールの受診患者の特徴に変化はありましたでしょうか。印象をお答えください。

(1) アルコールによる問題発生から初診までの期間は

大きく伸びた 伸びた 変わらない 短縮した 大きく短縮した

(2) アルコールの受診患者の初診時の重症度は

非常に重症化している 重症化している 変わらない 軽症化している

非常に軽症化している 変わらない

(3) アルコールの受診患者の飲酒量は

大きく増加している 増加している 変わらない 減少している 大きく減少している

(4) アルコール依存症患者のスリッパの頻度は

大きく増加している 増加している 変わらない 減少している 大きく減少している

(5) その他、このコロナ禍でのアルコールの受診患者の特徴で変化がありましたらご記載ください。

(_____)